

第2節 職場における Windows パソコンの利用状況

1. 回答者

職場のパソコン環境について回答した 68 人の内訳を図 3-2-1 から図 3-2-4 に示す。年齢構成において 10 代と 70 代を含まない点と、2 年未満のパソコン利用歴の割合が低いことを除けば、いずれのデータも、回答者全員のプロフィール（図 3-1-1 から図 3-1-4）と同じ傾向を示している。

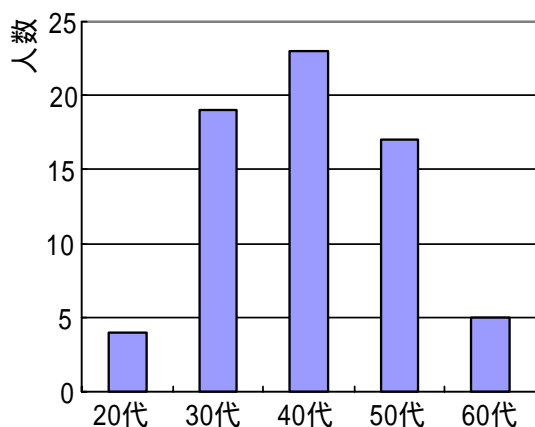


図 3-2-1 年齢 (n=68)

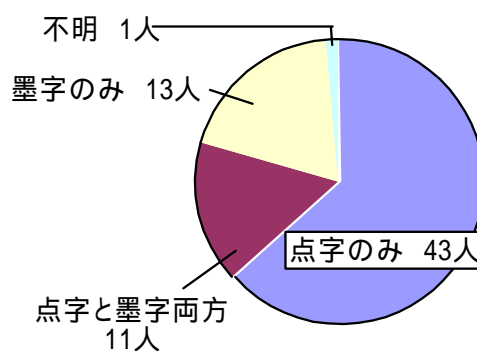


図 3-2-3 使用文字種 (n=68)

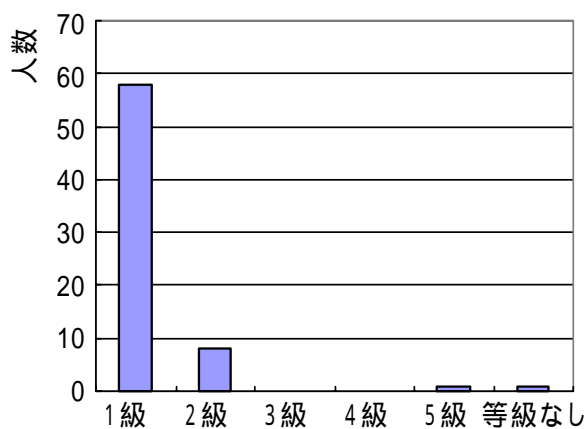


図 3-2-2 障害等級 (n=68)

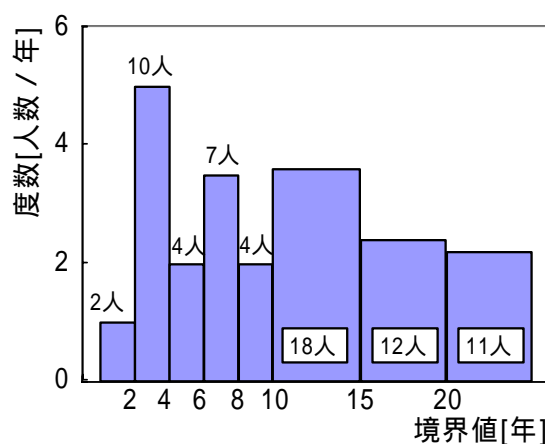


図 3-2-4 パソコン利用年数 (n=68)

2. 職業情報

職場のパソコン環境についての回答者数は 68 人であった。回答者の職場情報の内訳は表 3-2-1 と表 3-2-2 のとおりである。特徴的に多かった勤務先と職種は、自営で理療を営む者が 22 人、大学及びその他学校における教員が 13 人、民間企業における一般事務職が 5 人であった。

表 3-2-1 回答者の勤務先 (n=68。1 人は複数回答)

勤務先	人数
自営業	25
大学およびその他学校	14
民間企業	13
公益法人その他団体職員	4
病院および治療院 (自営は除く)	4
官公庁	3
福祉施設	3
その他	3

表 3-2-2 回答者の職種 (n=68。1 人は複数回答)

職種	人数
理療	25
教員	16
一般事務職	8
コンピュータ関連職種	4
理学療法士	3
技術職	2
ケースワーカー	2
その他	9

職種のその他の内訳は、顧客対応、会社経営、電話交換手、録音タイピスト、介護支援専門員、視覚障害リハビリ指導員、演奏家、開発職、出版・広報、各 1 人である。

3. パソコン利用状況

3.1 使用時間

職場でのパソコン使用時間は、2時間以上4時間未満が最も多く28人、次いで4時間以上6時間未満が13人、平均値は4.3時間であった(図3-2-5)。

3.2 基本ソフト

主に利用しているパソコンの基本ソフトは、Windows 98が最も多く39人、次いでWindows Meが15人であった(図3-2-6)。Windows 95もまだ7人が使っている。新しい基本ソフトWindows XPの利用者は、Home Editionが4人、Professionalは1人と少ない。その理由として、新しい機器購入の経済的負担のほかに、調査時点(2002年6月)では各スクリーンリーダーがXPに十分に対応していなかったことが視覚障害者特有の問題として考えられる。

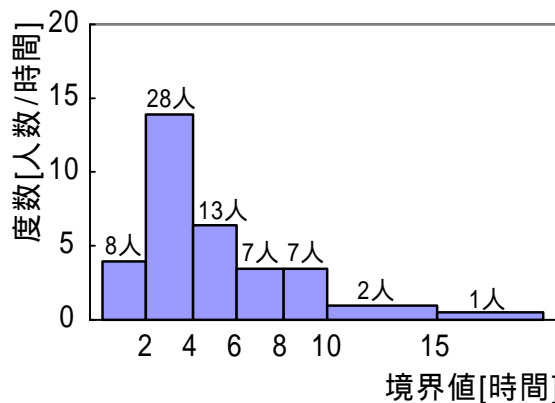


図3-2-5 パソコン使用時間 (n=68。2人は不詳)

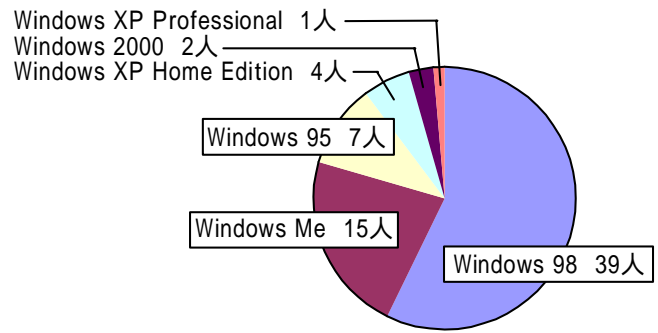


図3-2-6 基本ソフト (n=68)

3.3 ネットワーク環境

職場では、構内LAN及びインターネットに接続している回答者が23人いた(図3-2-7)。また、回答者の多くが自営業であることからISDN(13人)、ダイヤルアップ(11人)、ADSL/xDSL(5人)、CATV(3人)、光ファイバ回線(1人)を経由してインターネット接続を行っていた。職場ではネットワークに接続していないという回答者も7人いた。

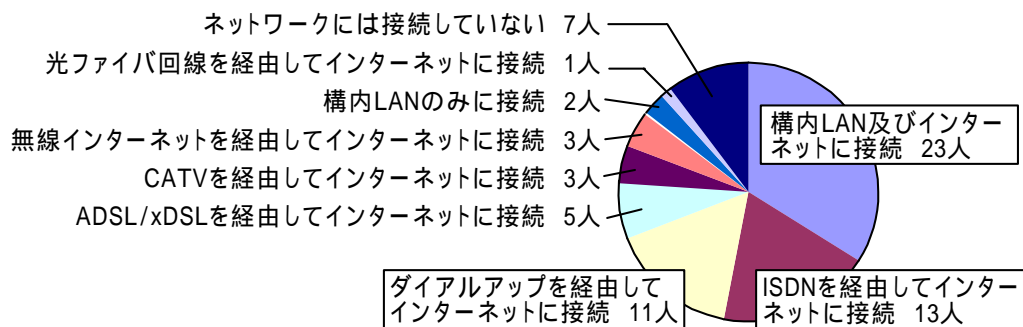


図3-2-7 ネットワーク環境 (n=68)

3.4 スクリーンリーダー

利用している Windows スクリーンリーダーを、利用頻度の順に挙げてもらった。最もよく使う Windows のスクリーンリーダーは 95Reader が 32 人、VDM100W-PC-Talker が 17 人、PC-Talker が 16 人、outSPOKEN が 2 人であった。29 人の回答者（43%）は 2 種類以上のスクリーンリーダーを使っていた。

表 3-2-3 各 Windows スクリーンリーダーを利用している回答者数（n=68。複数回答）。最上段の数字（1, 2, 3, 4）は、複数のスクリーンリーダーを使っている場合の使用頻度の順を表す。

	1	2	3	4	合計
95Reader	32	15	1	1	49
PC-Talker	16	6	0	1	23
VDM100W-PC-Talker	17	3	0	0	20
JAWS	0	2	6	0	8
outSPOKEN	2	3	1	0	6
合計	67	29	8	2	

表 3-2-4 95Reader のバージョン別分類

製品	回答数
2000Reader	35
98Reader	8
95Reader	4
XP Reader	2
合計	49

表 3-2-6 VDM100W-PC-Talker のバージョン別分類

製品	回答数
VDM100W ver. 5.*	11
VDM100W ver. 4.*	4
VDMW300	3
VDM100W ver. 3.*	2
合計	20

表 3-2-5 PC-Talker のバージョン別分類

製品	回答数
PC-Talker ver. 5.*	9
PC-Talker ver. 4.*	7
PC-Talker XP	2
PC-Talker ver. 3.0	1
バージョン不詳	4
合計	23

JAWS の内訳は ver. 3.7*が 6 人、2 人はバージョン不詳で、合計 8 人。outSPOKEN の内訳は、ver. 2.50 が 5 人、ver. 2.01 が 1 人、合計 6 人。

3.5 画面拡大

スクリーンリーダーとあわせて画面拡大ソフトを使っている回答者は 5 人だった。画面拡大ソフトとして ZoomText を 3 人、Microsoft 拡大鏡を 2 人が利用していた。

3.6 ハードウェア

ハードウェアの利用状況を図3-2-8に示した。スキャナは利用率が高く、39人(57%)の回答者が使っていた。視覚障害者用のハードウェアとして、点字ディスプレイ、点字プリンタ、点字電子手帳をそれぞれ16人、15人、7人が使っていた。

各製品(または機種、メーカー)の利用人数を表3-2-7から表3-2-10に示した。ここでは、回答者が1人の製品もできるだけ記載した。

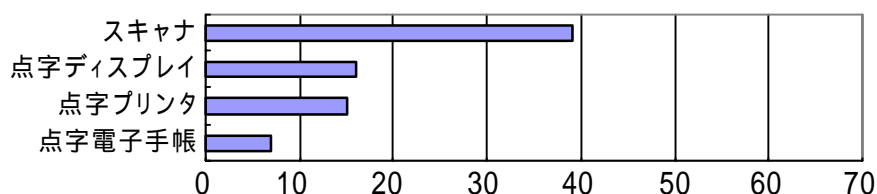


図3-2-8 ハードウェアの利用状況 (n=68。複数回答)

表3-2-7 スキャナ (n=68。複数回答)

製品	回答数
エプソン製品全体	28
内訳 GT-7000	(4)
GT-9500	(3)
GT-7700	(3)
GT-5500	(3)
その他	(15)
キャノン製品全体	6
シャープ JX350	1
その他	5

表3-2-9 点字プリンタ (n=68。複数回答)

製品	回答数
ESA	10
内訳 ESA721	(6)
ESA300 pro	(3)
不詳	(1)
TP-32	6
Everest D	2
TZ100	1
BT-2000	1
BP1C	1
不詳	1

表3-2-8 点字ディスプレイ (n=68。複数回答)

製品	回答数
BrailleNote	9
内訳 46D	(4)
40A	(3)
46C	(2)
PowerBraille 40	4
ALVA	2
内訳 ABT570	(1)
不詳	(1)
Navigator 40	1
不詳	1

表3-2-10 点字電子手帳 (n=68。複数回答)

製品	回答数
ブレイルメモ BM16	6
BrailleLite 18	1

3.7 ソフトウェア

利用している Windows アプリケーションの回答状況を図 3-2-9 に示した。また、各種類別のソフトウェア製品の利用人数を表 3-2-11 から表 3-2-20 に示した。ここでは、回答者数が 1 人のみの製品名も記すように努めたが、ワープロ・エディタ、電子メールソフト、音声化対応辞書・辞典では項目数が多いため「その他」にまとめた。DOS や UNIX 用のアプリケーションを回答している場合は、集計から除いた。以下、回答者数の高いアプリケーション種別の順に概観する。

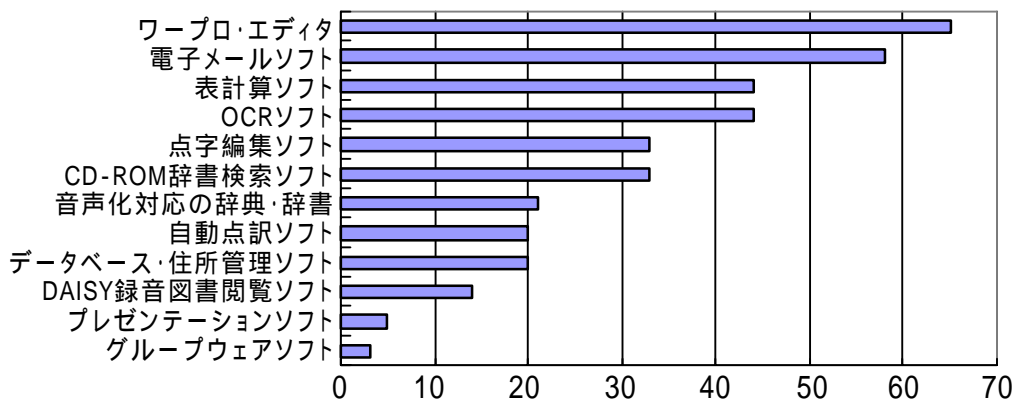


図 3-2-9 Windows アプリケーションの利用状況 (n=68。複数回答)

ワープロ・エディタ 職場でワープロまたはエディタを使っている回答者は 65 人、そのうちの 50%は複数のソフトを使っていた。使用者の多かったソフトは Microsoft Word (39 人), MYEDIT, MYWORD, WZ Editor (いずれも 14 人), MM-Editor (9 人) などであった (表 3-2-11)。

電子メールソフト 職場で利用している Windows の電子メールソフトについての回答者数は 58 人。回答数の多かった電子メールソフトは MM メール (38 人) 及び Winbiff (10 人) であった (表 3-2-12)。14 人が 2 種類のメールソフトを使っていた。電子メールによるアンケート調査にもかかわらず回答率が 100% とならないのは、一部の回答者は、(1) 職場ではインターネットに接続していなかったり、(2) MS-DOS のメールソフトを使っていたりするためである。

表計算ソフト 表計算ソフトを使っている回答者は 44 人で、使われているソフトは 2 例を除き Excel であった (表 3-2-13)。

OCRソフト OCRソフトを利用している回答者は 44 人、そのうち複数ソフト使用者が 10 人。視覚障害者用 OCRソフト (よみとも, MYREAD, ヨメール, らくらくリーダー) の使用者数は 39 人だった (表 3-2-14)。

ほかのアプリケーション使用者数は、点字編集ソフト (33 人), CD-ROM 辞書検索 (33 人), 音声化対応の辞典・事典 (21 人), データベース・住所管理ソフト (20 人), 自動点訳ソフト (20 人), DAISY 録音図書閲覧ソフト (14 人), プレゼンテーションソフト (5 人), グループウェア (3 人) である。

表 3-2-11 ワープロ・エディタ (n=68。複数回答)

製品	回答数
Word	39
内訳	
Word 2000	(26)
Word 2002	(3)
Word 97	(3)
その他	(7)
MYEDIT	14
MYWORD	14
内訳	
MYWORD III	(12)
その他	(2)
WZ Editor	14
内訳	
ver. 4.00E	(7)
その他	(7)
MM-Editor	9
内訳	
ver.7.*	(3)
その他	(6)
メモ帳	8
ワードパッド	7
一太郎 (10 と 11)	3
その他・不詳	7

表 3-2-12 電子メールソフト (n=68。複数回答)

製品	回答数
MM-Mail	38
内訳	
ver. 1.4*	(9)
ver. 1.5*	(3)
その他	(26)
Winbiff	10
内訳	
ver. 2.*	(6)
その他	(4)
MYMAIL	8
Outlook Express	6
ユニメール	5
その他	3

表 3-2-13 表計算ソフト (n=68。複数回答)

製品名	回答数
Excel	43
内訳	
Excel 2000	(27)
Excel 97	(6)
Excel 2002	(3)
Excel 95	(2)
その他	(5)
LOTUS 123	1
不詳	1

表 3-2-14 OCR ソフト (n=68。複数回答)

製品	回答数
よみとも	14
内訳	
ver. 5.0	(4)
その他	(10)
e.Typist	11
内訳	
ver. 7.0	(6)
その他	(5)
MYREAD	11
ヨメール	11
内訳	
ver. 5.0	(4)
ver. 4.0	(2)
その他	(5)
WinReaderPRO	3
らくらくリーダー	3
読ん de!!ココ	3
表 OCR for Excel	1

表 3-2-15 点字編集ソフト (n=68。複数回答)

製品	回答数
Win-BES 99	27
ブレイルスター for Windows	3
ブレイルスター*	3
Winaltair	1
不詳	1

*Windows 版 / MS-DOS 版のいずれかは不詳

表 3-2-16 CD-ROM 辞書検索ソフト

(n=68。複数回答)

製品	回答数
ViewIng for 95Reader	24
こととい (含む Light)	4
Jamming	3
ネット辞典リーダー	3
CDView	2
DDwin	1
不詳	1

表 3-2-17 音声化対応辞書・辞典
(n=68。複数回答)

製品	回答数
世界大百科事典	8
広辞苑	7
プロメディカ	3
その他・不詳	69

表 3-2-19 自動点訳ソフト (n=68。複数回答)

製品	回答数
EXTRA for Windows	17
内訳 ver.2.*	(8)
その他・不詳	(9)
IbukiTen	5
点図くん	1

表 3-2-18 データベース・住所管理ソフト
(n=68。複数回答)

製品	回答数
宛名職人	7
内訳 宛名職人 2002	(4)
その他	(3)
Access	6
内訳 Access 2000	(4)
Access 97	(2)
VDJW	4
アドボイス II	2
アルボ	2
桐	1
知子の情報 Pro	1

表 3-2-20 DAISY 録音図書閲覧ソフト
(n=68。複数回答)

製品	回答数
LpPlayer	11
PLAYBACK98	1
PLAYBACK2000	1
不詳	2

プレゼンテーションソフトの内訳は、PowerPoint が 4 人、製品名不詳が 1 人であった。グループウェアの内訳は、TeamWARE が 2 人、製品名不詳が 1 人であった。

その他 その他利用しているアプリケーションとして 17 人がのべ 49 の製品名を挙げた。それらを分類すると、CD/DVD ライティングソフト、データベースソフト、通信ソフト、(音楽等)レコーディングソフト、音声化システム (Windows 用以外も含む)、時刻表経路探索ソフト、翻訳ソフト、各種ユーティリティなどであった。アプリケーションの製品名を表 3-2-21 に列記した。

3.8 職場で使えなくて困っているアプリケーション

現在、職場で使えなくて困っているアプリケーションは 28 人から 45 件挙げられた。そのうち複数の回答者が挙げたのは、一太郎 (回答数 7 人)、Access (4 人)、Word (4 人)、Excel (3 人)、PowerPoint (2 人)、ファイルメーカー (2 人) であった。これ以外は、Cake Walk SONAR、Lotus Notes、Outlook Express、Win-CDR、ウイルスバスター、AcrobatReader、AutoCAD、オフィス 2002、Photoshop、PaintShop、ホームページ・ビルダー、駅すばあと、TGDpro、クラウン仏和辞典をそれぞれ 1 人ずつ指摘した。ほかに、製品を正確に特定できなかった回答が 9 件あった。

この質問の意図は、スクリーンリーダによる音声化ができていないため視覚障害者が利用できないアプリケーションを挙げてもらうことだった。しかし、実際には、スクリーンリーダのメーカー・販売元は音声化対応としているがすべての機能を音声化できていない、操作が煩雑で使いにくい、操作方法を現在習得中でまだ使いこなせていない、アプリケーションや基本ソフトが古いバージョンのため音声化対応できていない、などの理由による回答も含まれた。

表 3-2-21 その他利用しているソフト (n=68 のうち回答者数 17 人。複数回答)
製品名の後に (件) と書かれているもの以外はすべて回答数 1 件である。

種類	製品
CD/DVD ライティングソフト	WinCDR (4 件) B's Clip B's Recorder Gold EG CD クリエーター
通信ソフト	IPMsg (IPMessenger) FFFTP ver.1.82 TSWORKS NEWS (ネットニュースリーダー) Internet Explorer 6.0*
データベースソフト	CARD5 臨床電子カルテ ver.3.00 (カルテ管理ソフト) ケアプラン作成ソフト (MS-DOS 用自作ソフト)
レコーディングソフト	Wavelab-Lite cool edit pro Windows Media Player
音声化システム	Grsapi (DOS 用スクリーンリーダ SAPI 版) ALTAIR for Windows ver.1.0 2002 BEP (音声化システム)
時刻表経路探索ソフト	ハイパーダイヤ 駅すばあと
翻訳ソフト	CROSSROAD ver.3.0 ザ翻訳オフィス ver.2
ユーティリティ	HotClip ver.0.27 (クリップボード履歴をとる) (2 件) CD 革命 ver.4.2 テキストポーター ver.2.0 traypse ver.0.4 (タスクトレイをキーボードで操作する) インターネットで標準時刻合わせ ver.1.51 Text Export (テキスト・データを切り出すツール) +Lhaca ver.0.72 (解凍・圧縮ツール) XPLZH ver.3.56 (ファイルの圧縮・解凍ツール) Vec (データ処理ソフト)
メンテナンスユーティリティ	ウイルスバスター2002 HD 革命 backup 2 DiskX Tools ver.7 ディスクツールズ ノートンユーティリティ CareTake (メモリ管理ソフト) ファイルコンパクト ver.4 すっきり!! デフラグ
上記分類以外	ブレイルスキャン (点字 OCR ソフト) 家庭の医学 HTML 版 筆王 SuperTag 32pro ver.1.63 (HTML 作成支援ソフト) SP Code Maker (Speechio で読める SP コードを自動的に付加) TGDpro (点字グラフィック・ソフト) Fscript ver.3.55 (スクリプト言語 y.take 氏制作)

*Internet Explorer はスクリーンリーダと組み合わせて Web ページの読み上げに用いられる。その利用者は、第 4 節インターネットの利用状況で記すように多数いるので、Internet Explorer の利用者はこの項目への回答者数 1 人より多いと推察できる。

3.9 MS-DOS の利用

Windows パソコンとあわせて、MS-DOS パソコンを利用している回答者の数は 33 人で、利用していない回答者数 34 人を下回った（図 3-2-10）。職場の利用状況への回答者数 68 を分母とした割合は 49 % で、この数値は 2000 年の調査時の 77 % より下がっている。

MS-DOS の使い方は、MS-DOS 専用パソコンを使っている人が 21 人、Windows パソコンの MS-DOS プロンプトを利用している人が 17 人、Windows と同じパソコンでパーティションを分けて MS-DOS を使用している人が 11 人であった（図 3-2-11）。

MS-DOS 利用の用途は、文書作成、点訳・点字編集・点字印刷、ファイル管理が主なものであった（表 3-2-22）。

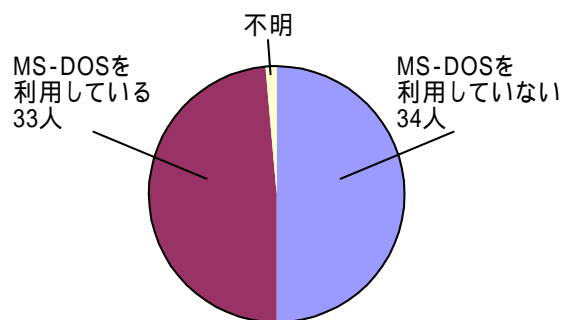


図 3-2-10 MS-DOS の利用率 (n=68)

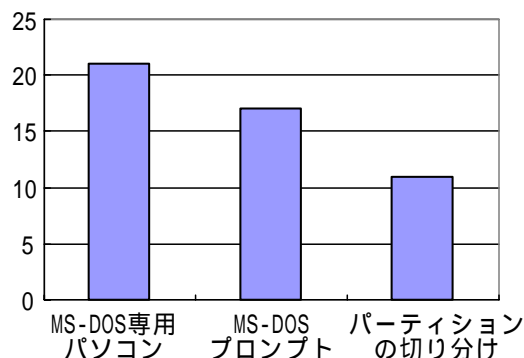


図 3-2-11 MS-DOS の利用形態 (n=33。複数回答)

表 3-2-22 MS-DOS で行っている作業 (n=33。複数回答)

作業の種類	回答数
文書作成	23
点訳・点字編集・点字印刷	22
ファイル管理	17
CD-ROM 辞書・辞典	8
データベース・カルテ等管理	8
パソコン通信	4
プログラミング	4
電子メール	3
インターネット	2
データの収集・解析	2
その他	12

その他の内訳は、タックシールでの宛名印刷、テキストファイル整形ツール (XTR)、作表、外字検索 (スクリプトを利用)、電話番号検索、花子のデータの利用、Ygrep、エーデルによる点図、読み上げ辞書の整備、かな漢字変換辞書の整備、自作ダイアリングソフト、音楽関係の各 1 件ずつである。